

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

明日は「農神おろし(田の神迎え)」。山と里とを行き来する農事の神様が、山から種子を抱いて里に下りてくる日との言い伝えがある。東北の農村地帯で

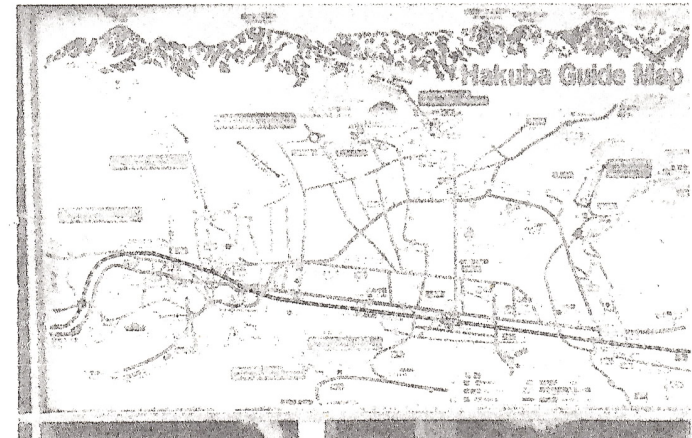
は、16個の団子を用意してお迎えする「16団子」の習わしが行われている。田の神様は、そのまま秋まで里に留まり稲や作物の成長を見守り11月16日に山に戻って「山の神」となると言われている。季節と暮らした信仰が合体した微笑ましい風俗習慣を、日本文化を求める外国からのお客様に関心を抱く文化行事として育んでみるのも楽しいだろう。

各地から伝わってくる。イタリアでは記録的雪不足で雪山は雪が消え、真冬のゲレンデがゴルフ場かと思うほどに。雪不足で多くのスキー場が営業終了する状況だが、大北地域のスキー場は3月に

地域資源の利活用には多様な考え方が求められる

然環境の維持に必要な水が不足する事を想定しなくてはならないのか心配は絶えない。水資源の確保は、全地域の課題になるに違いない。観光事業の財源確保の論議が本格化してい

光施策の財源として活用の余地があるに違いない。植物学者の稲垣栄洋さんの著書に「どんなに優秀であっても、個性がない集団はもうい」と。一つの価値観の下で、皆が一斉に同じ方向を見ている社会はいかにも危うい。多様な価値観をおおらかに受け入れる社会の方が住みやすい。自然界や生態系で多様性がいかに重要か説いている。また三洋電機副社長を務めた後藤清一さんは「何も咲かない寒い日は、下に下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」と。困難



JR信濃森上駅広場の観光案内版。古いデータ揭示内容に驚く

や課題が多い時ほど、多様な価値観を持つ人づくりの必要性を語り多くの人を励ましていく。根が深ければ深いほど、咲く花は美しくなると信じていたい。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)